

国大生の英語自律学習アンケート調査（1回目）報告

—国大生の促進を目指して—

Survey over YNU Students' Autonomous Learning Part 1

-How Much Do They Study English besides Their Course Assignments?-

横浜国立大学 大学教育総合センター

満尾貞行

キーワード: 自律学習 英語 興味・関心 SALC 英語四技能

Keywords: autonomous learning, English, interest, SALC, four skills of English

Abstract

Do our freshmen study English outside the class? What do they expect from YNU English teachers? The result of the survey conducted in the end of autumn semester gives us a clear picture of YNU freshmen's autonomous learning. In this report, the result of the survey is analyzed and discussed.

大学生の英語自律学習を支援する動きは、多くの大学で顕著になってきている。本紀要（高橋、渡辺、田島、満尾、2012）にもあるように、この動きに伴い SALC(Self Access Language Center)の充実、SALCを用いた指導に関する研究も盛んになりつつある。

本学大学教育総合センター英語教育部では、カリキュラム改革、SALC等の充実など、今後をにらみ、予備調査と第1回目の英語自律学習に関する調査を23年度に実施し、英語教育部主催の研修会でも調査結果を口述発表し、様々なご意見を頂いた。以下、研修会発表内容を踏まえ、報告する。

1. アンケート実施の背景と目的

文部科学省が唱えた「戦略構想」（2002）、「平成24年度グローバル人材育成推進事業」（2012）等に反映するように、現代の大学生には国際社会に通用する高度な英語力を身に付けることが求められてきている。各大学も英語教育に関して、種々の改革に取り組んできている。本学英語教育部でも限られた条件のなか、英語習熟別クラス編成、全学1年生が受験する統一試験（TOEFL-IP）の実施等を実現してきている。様々な改革がされてきているなか、学生たちが授業外でいかに英語学習に取り組むか、英語に接触する機会を増やすかということが、学生たちの英語習得上の原動力となると考えられ、取り組むべき課題の一つになっている。

この課題への取り組み方法の柱になるのが SALC と考える。SALC は、学生たちが授業外で英語学習をする上での支援センターである。センターは、学生個人のニーズ・興味・レベル・学習スタイルを尊重した学習支援を行うとともに、英語授業者との連携で授業をより効果的にする役割を期待されている。

国大生の英語自律学習アンケート調査（1回目）報告 満尾貞行

したがって、単なるリソース・センターではない。

SALC は、上述した機能を果たしていくために、第二言語習得の観点からは、四つの役割を持つ必要がある。四つの役割とは、①学習者の内発的動機付けを助けること、②学習者へ豊富な教材を用意し有効・質の高い英語のインプットを供給すること、③英語によるインタラクションの機会の供給—これは、会話のみならず、学習者が書く英文に対するフィードバックも含める、④学習者オートノミーの育成であり、言い換えればアドバイジング・サービス、学習者ディベロップメントのプログラム、協働学習の機会等の供給である。

以上の点から、また、成功している SALC の例（Sturtridge, 1997）を参考にすると、機能的な SALC には、少なくとも、（ア）自律を促すという理念、（イ）学習者の個別化学習の機会の提供という実践の二本柱の目標（Sheerin, 1997）と共に以下の条件が必要になる。

- ① 学習リソース
- ② 個別学習エリア
- ③ グループワーク、学習共同体を形成する場
- ④ 学習支援デスク
- ⑤ 特定のスキルを上達させる専門家のサポート
- ⑥ 学習方法などについてのワークショップ、催しプログラムの提供
- ⑦ 目標言語を使えるような機会（なるべく自然な環境で）

SALC に関して、より理解していただくために、補足説明をいくつかの例を提示することで試みたい。（この報告書には直接関わらないが、SALC に関連する事項をまとめたものを巻末付記に載せた。）SALC は、センター独自のプログラムは無論、英語授業との連携など教員の指導が入った活動も実施されている場合が多い。宇都宮大学、大阪教育大学等の場合にも両方の使い方を実施している。授業関連以外のフォーマルな活動（ワークショップ等）とインフォーマルな活動の両方をバランスよく取り入れることで、様々な学習スタイルでの利用が可能になる。例えば、学習者の中には、リラックスして楽しみながら語学練習をすることを好む者もいる。例としては、年齢の近い英語母語話者と英語で雑談したり、DVD で映画を見るというようなことである。こういったインフォーマルな活動が、興味や学習意欲を掻き立てることもある。言い換えれば、SALC でいろいろと利用できることを試すことが、様々な学習方法を試すことにもつながる。Gardner and Miller（1999）の報告にあるように、インフォーマルな活動に特定の目的を持ったフォーマルな活動を企画することで、SALC の学習環境の質は高まると考えられる。

SALC を利用する学習者の立場や利用目的を常に運営の礎にする必要があるのは、ほかの点でも同じである。例えば、英語で読む教材をそろえるというと図書館でも同じではないかと受け止められる場合もあるかもしれない。しかし SALC 利用者にとって、英語の本の利用は「何かを調べる」ことではない。英語力アップであり、英語の言語活動をすることである。したがって、利用者には、本のタイトル等のほかに、書かれている英語の難易度という視点、同じ目線の読者からの感想等を情報として提供する必要がある。したがって展示方法も図書館とは異なる。英語学習のための教材でも同じことが言える。その教材を使ってどのようなスキルを、どのような言語活動ができるのか、という点が明確になるような

国大生の英語自律学習アンケート調査（1回目）報告 満尾貞行

展示方法が必要となる。

SALCは、利用者（学習者）あつてのセンターであり、学習者の意欲をより促進し内発的動機を高める役割を持つ(Brown, 2007)。したがって、学生のニーズを把握することが成功の要因となる。アンケート調査は、本学においてどのような SALC を検討していくべきか、以上の観点に立ち実施されている。本報告書では、23年度に実施された予備調査に基づき実施した第1回調査についての報告をする。

2. アンケート実施状況と内容

第1回アンケート調査（24年1月末～2月初旬に実施）に先立ち、予備調査を23年7月に実施した(Dörnyei, 2010)。

第1回アンケート調査は、24年1月中旬から2月上旬にかけて実施した。英語実習1LR授業担当者に協力してもらい、1LRの最終授業の10分程度を使って、授業に出席している学生に回答してもらった。したがって、主に1年生を対象にしている。アンケート用紙は、各1LR授業担当の教員に配布してもらった。回答者数は778名であったが、データ・クリーニングの結果、714名分の回答を分析対象とした。授業の進度等の理由で、1LRの全クラスのうち、半分くらいで実施することができた。

アンケートは、15の質問より構成されており、Q1からQ6は現在の英語学習状況に関する質問でありQ7は動機に関して、Q8以降はSALCに関連した質問である。

質問は、すべて選択肢を選ぶ回答形式である。アンケート回答用紙の最後に記述欄をもうけ、任意で意見を述べてもらえるようにした。そのうち、Q3、Q5、Q6、Q7を除く11の質問の回答選択肢は、5段階のLikert scale（例としては、「かなり希望する 1 2 3 4 5 全く希望していない」など）を用いた。残りの四問は、予備調査（回答記述式）から得た学生の英語自主学習状況データをもとに選択肢を用意した（巻末付記参照）。

3. 統計結果（1）

5段階のLikert scaleの質問への回答の「Cronbach α 」は、0.829であり、回答者の一貫性という観点からは、高い信頼性を確認することができた。また、同じ質問を予備調査の段階で実施し、回答者が各質問の趣旨に沿った回答をしていることから、妥当性を確認できた。

3-1 現在の英語学習状況、動機に関する質問に関する回答

（1）Q1からQ7までの結果（頻度）

Q1 現在、大学での授業以外で、自分で英語の勉強に取り組んでいるかを教えてください。週にするとどのくらいの時間を使っていますか？

	週10時間 以上	週7時間～ 9時間	週4時間～ 6時間	週3時間以 下	0時間	合計
人数	17	17	82	376	222	714
%	2.4	2.4	11.5	52.7	31.1	100

表1 英語学習時間

国大生の英語自律学習アンケート調査（1回目）報告 満尾貞行

Q2 英語で書かれたものを読むことをしていますか？

	かなりし ている	している	どちらと もいえない	あまりし ていない	全くして いない	合計
人数	13	48	142	226	285	714
%	1.8	6.7	19.9	31.7	39.9	100

表2 英語で読む

Q3 [Q2で1から4のどれかを選択した場合]どんなものを主に読んでいますか？（NS用の：ネイティブスピーカーのための）

選択肢	人数	%
1 紙ベースかWEBで、NS用の英字新聞	93	21
2 NS用の原書	40	9
3 英語学習者向けに平易に書かれた英語の本	109	25
4 英語学習者向けにわかりやすい解説が付いた英字新聞	31	7
5 その他*	171	39
合計	444	100

表3 何を読んでいるか

*その他は、TOEFL等の英語能力検定試験関連の問題集等です。

Q4 どのくらい英語を聞く（TVのニュース番組・英語会話番組、CD、DVD、インターネットなど）ようにしていますか？

選択肢	かなりし ている	している	どちらと もいえない	あまりし ていない	全くして いない	合計
人数	18	39	114	265	278	714
%	2.5	5.5	16	37.1	38.9	100

表4 英語で聞く

* Q2、Q4の選択肢は、主観的である可能性も懸念されるが、具体的に勉強時間数で回答をするQ1との相関性が高く（Q1とQ2は、0.62、Q1とQ4は0.51の相関率）、したがって信頼できると考える。

Q5 [Q4で1から4のどれかを選択した場合]どんなものを主に聞いていますか？

選択肢	1 NS用のニ ュース・教養 番組	2 NS用の映 画、ドラマな ど	3 英語学 習者用向け の教材など	4 英語学 習向け教材 のニュース など	5 その 他	回答	合計
人数	50	99	97	28	178	8	460
%	10.9	21.5	21.1	6.1	38.7	1.7	100

表5 何を聞いているか

国大生の英語自律学習アンケート調査（1回目）報告 満尾貞行

Q6 英語で話す・書くという自主学習に関して、あてはまるものを1つ下から選んで下さい。（Q1に関連した質問です。）

選択肢	人数	%
1 英語で話す・書く練習をなるべくするようにしている。	23	3.2
2 英語で話す練習はなるべくするようにしている。	67	9.4
3 英語で書く練習はなるべくするようにしている。	146	20.4
4 どちらともあまりしていない。	288	40.3
5 全くしていない。	190	26.6
合計	714	100

表6 英語で書く・話す

Q7 目的・動機を教えてください。複数ある場合には最優先するものを書いてください。

	人数	%
1 試験準備のため	161	22.5
2 英語資格試験準備	62	8.7
3 就職活動準備・キャリアで必要になるから	163	22.8
4 英語で情報を得たいから	57	8.0
5 英語力向上	271	38.0
合計	714	100.0

表7 英語学習の動機・目的

(2) Q1 から Q7 の結果に関する補足説明

(2) - 1. 授業関連以外の英語学習をしないと回答した学生 222 名（Q1 の回答から）の他の質問への回答傾向

授業関連以外の英語学習をしないと Q1 で回答した 222 名のうち、120 名が、Q2、Q4、Q6 に回答している。それらの回答結果をクロス集計した。

	Q2 (読む)	Q4 (聞く)
かなりしている	0 名	1 名
している	3 名	2 名
どちらともいえない	11 名	11 名
あまりしていない	37 名	50 名
全くしていない	69 名	56 名
合計	120 名	120 名

表8: Q1（英語自主学習しているか？）で「全くしていない」の回答者の Q2、Q4 の回答

120 名中半分近い学生が、「読む」か「聞く」を少しはしていると回答している。かなりポジティブな回答もあった。この傾向は、英語で「書く・話す」自主学習に関しても同じような結果を見ることがで

国大生の英語自律学習アンケート調査（1回目）報告 満尾貞行

きる。（表9）

1 英語で話す・書く練習をなるべくするようにしている。	0名
2 英語で話す練習はなるべくするようにしている。	2名
3 英語で書く練習はなるべくするようにしている。	13名
4 どちらともあまりしていない。	66名
5 全くしていない。	39名
合計	120名

表9 Q1で「全くしていない」の回答者のQ6の回答

したがって、「英語学習時間は0時間である」という回答に対し、やや幅を持たせた理解をする必要がある。

（2）－2．授業関連以外の英語学習を「3時間以内」回答者376名の他の質問への回答前の節（(2)-1）と同じ調査を、英語学習時間3時間以内と答えた回答者に関して実施した。

	Q2	Q4
かなりしている	3	6
している	17	19
どちらともいえない	80	59
あまりしていない	165	180
全くしていない	111	112
合計	376	376

表10 Q1で「あまりしていない」の回答者のQ2、Q4の回答

	Q6
1 英語で話す・書く練習をなるべくするようにしている。	4
2 英語で話す練習はなるべくするようにしている。	33
3 英語で書く練習はなるべくするようにしている。	99
4 どちらともあまりしていない。	195
5 全くしていない。	45
合計	376

表11 Q1で「あまりしていない」の回答者のQ6の回答

376名中、Q2もしくはQ4（あるいは両方の質問）に対し、3以上を選択している者は、それぞれ100名、84名であった。彼らは、英語学習を週3時間以内する、と回答している。この中に「英語で読む」「英語で聞く」を「かなりしている」と回答している者もいる。この回答への解釈は二通り可能である。一つは、「かなりしている」という言葉が持つ主観性の問題であり、もう一つは「英語で読む・聞く・書く・話す」という行為が「英語学習をしている」という意識につながっていない可能性である。特に「書く・話す」自主学习への回答結果から、その可能性が考えられる。つまり学習というよりは、趣味や他

国大生の英語自律学習アンケート調査（1回目）報告 満尾貞行

の感覚（例えば、コミュニケーションの手段）で受け止めている可能性もある。24年春に開催した英語教育部研修会参加者¹複数からも同様の意見が出された。

（2）－3. Q2「英語で読んでいるか」とQ3「[Q2で1から4のどれかを選択した場合]どんなものを主に読んでいますか？」の回答のクロス集計

何を？ ↓読んでいるか	1 NS用の ニュース・教 養番組	2 NS用の 映画、ドラ マなど	3 英語学 習者向け の教材など	4 英語学 習向け教材 のニュース など	5 その 他	合計
かなりしている	4 30.8%	2 15.4%	0 0.0%	1 7.7%	6 46.2%	13 100.0%
している	13 27.7%	10 21.3%	7 14.9%	3 6.4%	14 29.8%	47 100.0%
どちらともい えない	34 23.9%	15 10.6%	42 29.6%	7 4.9%	44 31.0%	142 100.0%
あまりしてい ない	42 18.6%	13 5.8%	58 25.7%	14 6.2%	99 43.8%	226 100.0%
全くしていな い	0 0.0%	0 0.0%	2 12.5%	6 37.5%	8 50.0%	16 100.0%
合計	93 20.9%	40 9.0%	109 24.5%	31 7.0%	171 38.5%	444 100.0%

表12 英語読書量と読む物

傾向として、英語で読まない回答者グループほど、「その他」の 카테고리を選んでいる。「全くしてない」「あまりしてない」グループは、半数近くが「その他」の 카테고리を選んでいる。この「その他」の 카테고리には、TOEIC 英単語集、英語能力試験問題集等がある。本学学生をはじめ、多くの日本人にとって英語は「外国語」であり、第二言語ではない。大学入学前までの英語学習や TOEIC、TOEFL 等のスコアが大学卒業後の就職条件になりつつあることも手伝って、英語は学習するものであり、情報を得る、読んだり聞いたりして日本語と同じように楽しむ手段である、というとらえ方を多くの学生はしていないということである。英語を習得するにあたって、英語接触量がものを言う。英語が第二言語である環境作りは、本学にとって急務であろう。英語による授業を多くすることは無論、授業外の時間においても第二言語環境作りをすることが必要である。そのための指導が授業や SALC で実施されることも必要と考える。また、英語力を伸ばすには、問題集より、遠回りのようであるが英語にもっと多く触れていくことが王道であることを学生が認識する必要がある。

¹ 24年4月2日にあった。英語教育部教員、大教センター職員の外に10名の英語担当教員が参加した。

国大生の英語自律学習アンケート調査（1回目）報告 満尾貞行

（2）－4. Q4「英語で聞いているか」とQ5「[Q4で1から4のどれかを選択した場合]どんなものを主に聞いていますか?」の回答のクロス集計

何を?→ ↓聞いている か?	1 NS用の ニュース・教 養番組	2 NS用の 映画、ドラマ など	3 英語学 習者向け の教材など	4 英語学 習向け教材 のニュース など	5 その 他	合計
かなりしている	5 27.8%	2 11.1%	1 5.6%	0 0.0%	10 55.6%	18 100.0%
している	7 18.4%	11 28.9%	6 15.8%	3 7.9%	11 28.9%	38 100.0%
どちらともいえ ない	14 12.3%	30 26.3%	24 21.1%	6 5.3%	40 35.1%	114 100.0%
あまりしていな い	25 9.5%	53 20.1%	58 22.0%	18 6.8%	110 41.7%	264 100.0%
全くしていない	1 3.2%	0 0.0%	3 9.7%	12 38.7%	15 48.4%	31 100.0%
合計	52 11.2%	96 20.6%	92 19.8%	39 8.4%	186 40.0%	465 100.0%

表13 英語で聞く量と聞く内容

全体に「その他」を選ぶ傾向が強い。その他には、英語の歌や英語能力試験のCD等が挙げられる。
（2）－3と同じような傾向がある。

国大生の英語自律学習アンケート調査（1回目）報告 満尾貞行

(2) - 5. 勉強時間と動機・目的の関係

	1 試験準備 のため（大学 院、留学など）	2 英語資格 試験準備	3 就職活動 準備・キャリ アで必要にな るから	4 英語で情 報を得たいか ら	5 英語力 向上	合計
週 10 時 間以上	11 64.7%	1 5.9%	1 5.9%	1 5.9%	3 17.6%	17 100.0%
週 7 時 間～9 時 間	6 35.3%	3 17.6%	1 5.9%	2 11.8%	5 29.4%	17 100.0%
週 4 時 間～6 時 間	13 15.9%	7 8.5%	17 20.7%	14 17.1%	31 37.8%	82 100.0%
週 3 時 間以下	73 19.4%	30 8.0%	96 25.5%	26 6.9%	151 40.2%	376 100.0%
0 時間	58 26.1%	21 9.5%	48 21.6%	14 6.3%	81 36.5%	222 100.0%
合計	161 22.5%	62 8.7%	163 22.8%	57 8.0%	271 38.0%	714 100.0%

表 1 4 勉強時間と動機・目的

週 4 時間以上勉強する 3 グループの動機・目的で目立つのは、「試験準備のため（大学院進学、留学等）」である。次に週 4 時間から 6 時間勉強するか、それ以下の勉強時間のグループの動機・目的で目立つのは、「英語力向上」のためである。しかし、具体的な目標と漠然とした目標の違いが勉強時間と相関しているとまでは言えない。「英語力向上」を選択した学生たちは、一体どのような英語力向上を目指しているのであろうか。「英語力向上」を選択した回答者の他の質問（Q2,3,4,5,6）の回答傾向を調べた。やや顕著であったのは、Q6 の英語で「書く・話す」に関連する回答で、「英語で話す・書く両方、もしくはどちらかをよく練習している。」と答えたのは全回答者 714 名中 23 名であり、そのうちの 11 名（48%）が、英語の勉強の目的・動機を「英語力向上」としていることである。この質問に回答した「英語力向上」回答者は、全体の 38% であるから、やや強い傾向といえる。これ以外には特に顕著な傾向は見られなかった。

3-2 SALC に関連した質問の回答

(1) SALC に対する学生の希望調査（頻度）

Q8 から Q15 は、SALC に関する学生の希望調査である。Q8 から Q15 は SALC の各サービスについての質問であり、どの程度回答者が各サービスを望んでいるかを回答結果は示している。選択肢の 1 は強く希望するであり、5 は全く希望しないを意味する。したがって、平均値が低いほど希望度が高いこ

国大生の英語自律学習アンケート調査（1回目）報告 満尾貞行

とになる。

表 1 5 SALC の各機能への回答の記述統計

	範 囲	最小 値	最大 値	平均 値	標準 偏差	分散	歪度	尖度
情報コーナー	4	1	5	2.96	1.26	1.59	.094	-.913
e-learning 利用	4	1	5	3.54	1.14	1.30	-.441	-.551
L 教材貸出	4	1	5	3.39	1.18	1.39	-.361	-.642
R コーナー貸出	4	1	5	3.06	1.18	1.39	-.053	-.763
W のサポート	4	1	5	2.92	1.21	1.46	.006	-.868
学習アドバイス等	4	1	5	3.29	1.15	1.32	-.272	-.539
S コーナー	4	1	5	3.07	1.20	1.43	-.089	-.768
GWORK の場	4	1	5	3.30	1.18	1.40	-.246	-.689

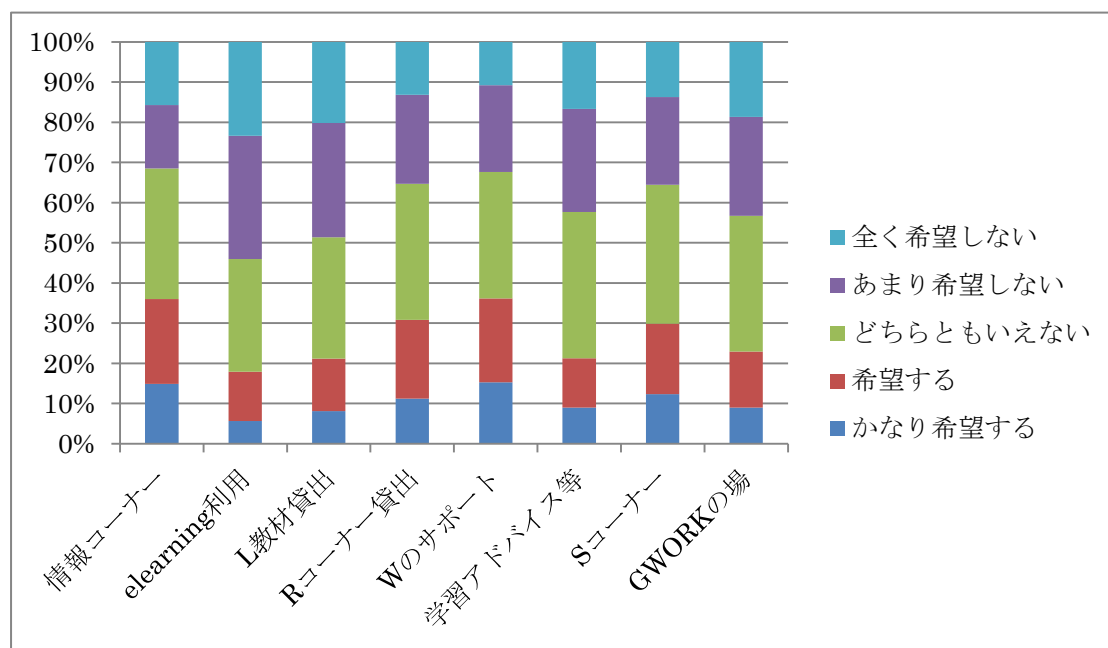


図 1 SALC 希望調査

選択肢の一つである「どちらともいえない」が回答に占める割合が高くなっている。これは、SALC に無関心であるというよりは、SALC という自律学習のための機関の機能・内容を十分に理解していないことが原因と考えられる。現に筆者が担当したクラスで

SALC について尋ねたところ、80%の学生が（50 人クラスで 40 名）、こういった機関が世の中に存在することも知らなかった。

（2）Q8 から Q15 の結果に関する補足説明—SALC への 3 パターンの希望

Q8 から Q15 の回答をクラスタ分析（階層クラスタ）し、デンドログラムで示したのが、以下の図 2 である。

国大生の英語自律学習アンケート調査（1回目）報告 満尾貞行

リスニングやリーディング教材貸出のように「貸出利用」を好むグループ、スピーキング練習や学習アドバイス、グループによる協働学習、ライティング等の指導といったセンターに来て人と交流する「活動利用」を好むグループ、e-learning や情報コーナーのように「マイペースの活動」を好むグループに、回答者は分かれる。学習者の学習スタイルや性格、スケジュール等が関係してくると考えられる。学部・性別間に有意差はない。SALC を考えていくに当たり、こういった3つのグループに活動選択が分かれることも考慮していく必要がある。

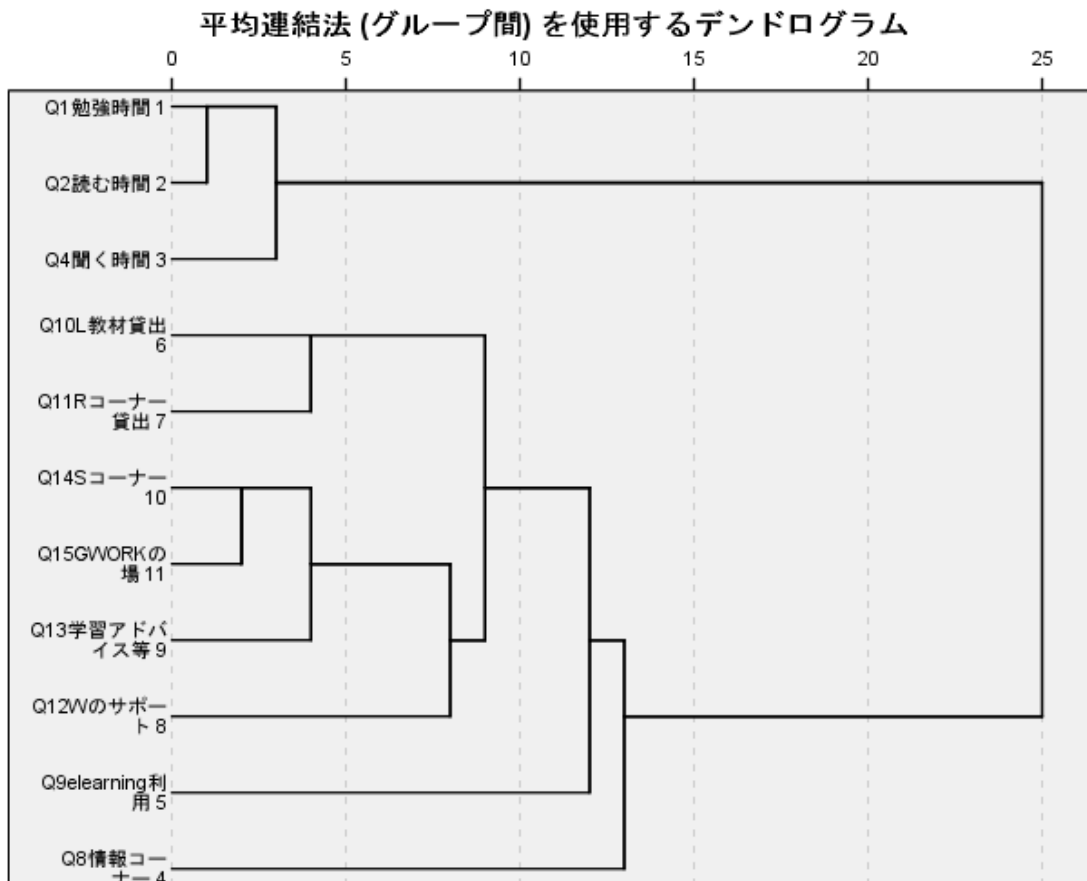


図2 回答に見る三つのグループ

4. 纏めと今後の課題

(1) 纏め

アンケートは、15の質問より構成されており、Q1からQ6は現在の英語学習状況に関する質問であり、Q7は動機に関して、Q8以降はSALCに関連した質問である。

英語の授業や、授業に関わる課題、予習・復習等を除いた英語学習時間は、週3時間以内という回答が80%以上を占める。予備調査の記述回答や本アンケートの記述回答には、この時間数に関して、課題、アルバイト等で忙しいという理由が挙げられている。英語学習に使用する教材は様々であるが、学習時間の少ない回答者はTOEFL, TOEIC等の英語試験問題集を用いる傾向が強い。回答者全体でみても、「英語は情報を得る、コミュニケーションのためのツールである」というとらえ方はあまりされていない。

アンケートで挙げたSALCの各サービスへの希望度は、この英語学習時間とは特に関連性はなく、英

国大生の英語自律学習アンケート調査（1回目）報告 満尾貞行

語学習時間が多いほど各サービスへの希望度が高いという結果ではなかった。むしろ、各回答者の学習スタイル等と関連していると考えられる。

今回のアンケート結果から SALC に生かし、すぐにでも実行できそうな点は、以下のようであろう。

① 英語をツールとしてとらえる環境作りをしていくこと。例えば、気軽にきて英語でおしゃべりができる空間を SALC の一部として用意することもその一つであろう。構えることなく、ちょっとした時間に関けるような本や電子情報（スマートフォン等を利用して）、言い換えれば、学生にとって身近な話題や親しみのもてる内容の本を用意することも考えられる。

② 情報の提供である。つまり、留学、英語学習方法、読んで面白い英語の本等、学生が自律学習をしていくうえで必要と思われる様々な情報の提供である。

③ SALC の利用方法の多様化である。学内の建物の中に機関としては作られる。利用できる機器や気軽にきて英語でおしゃべりができる空間は、こういった建物内になる。しかし、なるべく利用方法は多様でありたい。例えば、SALC の所有する本を読む場合、この建物の Book section に来て借りることも、インターネットで SALC の HP にアクセスし、電子書籍で読むということも可能にできるとよい。

調査結果を更に分析し、SALC に生かせることを検討していきたい。

(2) 今後の課題

今後、今回のような調査をする上で、少なくとも四点の課題が今回の調査で明らかになった。

第一に、時間的制約の問題である。1LR の最後の授業の 10 分程度を利用して回答してもらうようにした。授業中に 10 分間の時間を絞り出すということは、授業指導等にも差し支える可能性がある。また、時間的に制約がある中でのアンケート調査実施であったため、必ずしもじっくりとは回答してもらっていない。

第二に、アンケート回答者が 1 学年のみという点である。今後は上学年も対象にしていく必要がある。2 学年以上が必要と考えていることを知る必要がある。筆者は、1 年生に実施したアンケート調査を担当する 2LR クラスでも実施したが、かなり違う結果が出た。学年以外の因子もあり得るが、全学的視野に基づいた取り組みをするには、回答者の幅を広げる必要がある。

第三に、アンケート質問方法の見直しである。23 年 7 月の予備調査、24 年 1 月の第 1 回調査は、アンケート用紙を用意し、回答してもらうという方法をとった。これ自体には問題はないと考える。問題は、回答者である学生が、アンケート用紙に書かれた SALC に関する説明だけで、十分 SALC を理解して回答しているか、である。回答をしてもらう時に、実際に SALC とはどのような設備でありどのような利用がされているのか、ビデオで映像を見てもらいながら、回答する方法等をとる必要がある。

第四に、統一試験直後のアンケート調査結果を今回は報告内容に含めることができなかったことである。この統一テスト後の結果も合わせてアンケート回答の分析を急ぎ実施したい。また、次年度以降、以下を実現できるように努めたい。①できればこの二つのアンケートを一つにする、②TOEFL スコア情報も含めて分析できるようにする、以上である。

今回の分析結果に基づき、第二回調査の準備に取り組んでいきたい。

国大生の英語自律学習アンケート調査（1回目）報告 満尾貞行

付記

SALC について

自律学習につながるセルフ・アクセス学習

1. SALC (Self-Access Learning Center)の目標：
 - ① 自律を促すという理念
 - ② 学習者の個別化学習の機会の提供という実践
2. 構成要素：
 - ⑧ 学習リソース（印刷教材、マルチメディア、オンライン教材など）、
 - ⑨ 個別学習エリア、
 - ⑩ グループワーク、学習共同体を形成する場、
 - ⑪ 学習支援デスク；アドバイジング・サービス、
 - ⑫ 特定のスキルを上達させる専門家のサポート、
 - ⑬ 学習方法などについてのワークショップ、催しプログラムの提供、
 - ⑭ 目標言語を使えるような機会（なるべく自然な環境で）
3. 学習者オートノミーとの関係：
 - ①学習者ディベロップメント（例えば、自分の雅楽学習のニーズの分析⇒目標を立てる⇒学習計画を立てる⇒教材や学習活動の選択⇒学習の自己評価など）のプログラム化と授業との関連、
 - ②アドバイジング・サービス、
 - ③協働、相互依存、インタラクションの機会、
 - ④英語カリキュラムとの関係（関連性はあるとよいが、授業に関連した課題等を学生が取り組むだけのための設備ではよくない）、
 - ⑤学生の運営への関与
4. セルフ・アクセス学習の評価：
 - ①センターの評価、
 - ②学習成果の評価
5. センター設立の留意点：
 - ① 教員と経営者の支持、
 - ②物理的なスペースの確保、
 - ③予算、
 - ④学生のニーズ分析、
 - ⑤語学カリキュラムの分析、
 - ⑥スタッフの教育

英語学習に関するアンケート

この調査は、1年生の皆さんの自律学習の実態を把握することを目的にしています。収集された回答は、今後の指導に生かします。ご協力よろしくお願ひします。学籍番号および氏名を入れていただくのは、今後の指導のためとご理解ください。全く成績とは関係ありません。尚、記入の際には数値が大きくなるほど（～していない）という自己評価になることに注意してください。（裏面もあり）

大学教育総合センター 英語教育部

所属学部を番号で選んでください。所属学部 1. 教育 2. 経済 3. 経営 4. 工学 5. 理工
性別 1. 男 2. 女 学生番号： 氏名：
学籍番号と氏名を**右上空欄**の書いてください。

[授業外の英語学習状況を教えてください]

(時間)

Q1 現在、大学での授業以外で、自分で英語の勉強に取り組んでいるかを教えてください。週にするとどのくらいの時間を使っていますか？

例) 英語で読む（物語、新聞等）、英語で聞く（ラジオ・テレビ番組、市販のCD等）、英語で書く（英文日記、①で読んだ内容の感想を書くなど）、英語で話す（英会話学校、シャドーイング等一人で練習）、TOEFLやTOEIC等の対策本を学習するなど

1. 週 10 時間以上 2. 週 7 時間～9 時間 3. 週 4 時間～6 時間 4. 週 3 時間以下 5. 0

時間

(四技能)

国大生の英語自律学習アンケート調査（1回目）報告 満尾貞行

Q2 英語で書かれたものを読むことをしていますか？

かなりしている 1 2 3 4 5 全くしていない

Q3 [Q2で1から4のどれかを選択した場合]どんなものを主に読んでいますか？（NS用の：ネイティブスピーカーのための）

1. 紙ベースかWEBで、NS用の英字新聞（Japan Times、Dailey Yomiuri など）・雑誌（Newsweek、TIME など）
2. NS用の原書（エッセイ、物語、評論、専門分野内容など）
3. 英語学習者向けに平易に書かれた英語の本（単語の難易度がレベル別に考慮された英語の物語の本など）
4. 英語学習者向けにわかりやすい解説が付いた英字新聞（Student Times など紙ベースかWEBで）
5. その他

Q4 どのくらい英語を聞く（TVのニュース番組・英語会話番組、CD、DVD、インターネットなど）ようにしていますか？

かなりしている 1 2 3 4 5 全くしていない

Q5 [Q4で1から4のどれかを選択した場合]どんなものを主に聞いていますか？

1. NS用のニュース・教養番組（TV、ラジオ番組なので、含むNHKニュース多重放送、ポットキャスト¹など）
2. NS用の映画、ドラマなど（TV、DVD、ポットキャストなど）
3. 英語学習者用向けの教材など（英語学習雑誌付録CDやDVD、WEB、ポットキャストなど）
4. 英語学習向け教材のニュースなど（英語学習雑誌付録CDやDVD、WEB、ポットキャストなどで）
5. その他（英単語学習、英語の歌、検定試験の対策本で出題されている英文なども含む）

Q6 英語で話す・書くという自主学習に関して、あてはまるものを1つ下から選んで下さい。（Q1に関連した質問です。）

1. 英語で話す・書く両方、もしくはどちらかを練習をよくしている。（週合計3時間以上）
2. 英語で話す・書く両方、もしくはどちらかを練習している。（週合計2時間以上）
3. 英語で話す・書く両方、もしくはどちらかを少し練習している。（週合計1時間以上）
4. 英語で話す・書く両方、もしくはあまり練習していない。（週1時間未満～）
5. 全くしていない。

[英語学習の目的・動機]

Q7 目的・動機を教えてください。複数ある場合には最優先するものを書いてください。

例) 海外の人と異文化交流したい、留学したい、英語で専門書を読みたい、就職活動に備えたい、外資系の企業で働きたい

1. 試験準備のため（留学、大学院など）
2. 英語資格試験準備
3. 就職活動準備・キャリアで必要になるから（教員になるから、外資系企業にすすみたい、海外で活躍する技術者、科学者になりたい、など）
4. 英語で情報を得たいから（英語で専門書を読みたい、本が好きなので海外の本を原書で読みたい、いち早く世界の情報を得たい、新しい情報をいち早く知りたい、趣味のサイトを閲覧する、など）
5. 英語力向上（含む、専門書を読みたい、話せるようになりたい、異文化理解できるスムーズなコミュニケーション、趣味を通じて交流をするため、など）

[自律学習と大学の機関]

自律学習をするうえで、どのような設備を利用したりやサービスを受けたいと思いますか？（複数可）（以下に挙げるうち、現在大学にはまだないものも多くあります。）

（情報を得る）

Q8 TOEIC、読みやすい・面白い洋書、（私費）留学の情報等を紹介するコーナーは利用したいか。

かなり希望する 1 2 3 4 5 全く希望していない

（自学用教材の提供）

Q9 PCを利用したe-learning等¹には様々な種類があります。こういった設備が学内にあり、自宅や学内で自主学習できる場合（大学開講中も休み中に利用できる）、どのくらい自分は利用すると思いますか？

国大生の英語自律学習アンケート調査（1回目）報告 満尾貞行

自分なりに利用方法を工夫して積極的に使う 1 2 3 4 5 全く使わない

Q10 英語の CD, DVD 等リスニング教材の貸出

かなり希望する 1 2 3 4 5 全く希望していない

Q11 多読用の本コーナーの設置（本には音声 CD もついていることもあるといい）、英字新聞・雑誌を気軽に読めるコーナーなど、リーディング教材の貸出

かなり希望する 1 2 3 4 5 全く希望していない

（学習指導等）

Q12 Writing 指導を受けられるなど、特定のスキルを上達させる専門家のサポート

かなり希望する 1 2 3 4 5 全く希望していない

Q13 学習支援デスク；アドバイジング・サービス、学習方法などについてのワークショップ、催しプログラムの提供など

かなり希望する 1 2 3 4 5 全く希望していない

（場の提供）

Q14 英語で話すコーナーを英語教育部等に設けるなど、目標言語を使えるような機会（なるべく自然な環境で）

かなり希望する 1 2 3 4 5 全く希望していない

Q15 英語のグループワーク、学習共同体を形成する場

かなり希望する 1 2 3 4 5 全く希望していない

記述

動機についてお聞きしましたが、さらに付け加えていただけることや、②英語で「話す」「書く」学習を自分でされている方は、是非具体的に教えてください。また③PCを利用した e-learning 等に組み込む場合、内容的にはどういったことをしたいか教えてください。④自習等に図書館を利用されている方も多くいますが、特に語学学習のための自習学習用の部屋等は必要だと思う人はその理由を教えてください。①～④以外のことでも、是非書いてください。（回答する場合は、①・・・、③・・・、その他・・・と書いてくれますと助かります。）

引用文献

高橋邦年、渡辺雅仁、田島祐規子、満尾貞行. (2012). 「9月9日 宇都宮大学基盤教育センター訪問 報告書」『横浜国立大学 大学教育総合センター紀要 第二号』

(印刷中)

Brown, J. (2007). *Principles of language learning and teaching*. White Plains, NY: Pearson Education.

Dörnyei, Zoltán. (2010). *Questionnaires in Second Language Research* (2nd. ed.) New York: Routledge.

Gardner, D., & Miller, L. (1997). *A study of tertiary level self-access facilities in Hong Kong: City University of Hong Kong*. Retrieved May 3, 2009 from

[http://ec.hku.hk/dgardner/Publications/SALL_report-\(e-version\).pdf](http://ec.hku.hk/dgardner/Publications/SALL_report-(e-version).pdf).

Sheerin, S. (1997). An exploration of the relationship between self-access in independent learning. In P.

Benson & P. Voller (Eds.). *Autonomy and independence in language learning* (pp. 54-65). London: Longman.

Sturtridge, G. (1997). Teaching and language learning in self-access centers—Changing roles? In P. Benson & P. Voller (Eds.) *Autonomy and independence in language learning* (pp. 68-78). London: Longman.